

てんぎ新聞

13.2 No.188
発行 市岡田
発行 0883-88-292
発行 0883-88-292

一週間もしない内に
雑草といわれぬところ
植物が緑色を強め
小豆の花もつけはじめ
てくる。

今年の冬は、寒中の雪が、春先の雪の様に
水分を多くふくんでいて、多数の木に被害が
あつたりと、ちやうと変つて来た。

それごと、やっぱり春は待ち遠しい、
何メートルの雪が積もる雪国の皆百せん程
では無いが、ちやうと春、かまど感
ひる事が多くなる。びんがた替しくなる。
散歩のコースの道端の雪がとけはじめると
所にフキントウが顔を出してこけるのを見つ
けた時、ニニプラにしようと思つた前に、よつ
今年も春が近づくに違いないとニニニコ。
いれ物という様、物様に囲まれて暮らしてけ
るが、その物様の黒い茶色に、変化が見え
たり、山々が、遠くうろたへて感心したりと、一日一
日、春が多く見つかるとなつて来ます。
春は、壁からやがて来るので、相方は、まだ
早いのかとこれませんが、斬えの氷柱がな
く、つてきましたよ。

向いの葉落の家々が、かまどにいます。
にヨドリ、はじめ小鳥の音が多く聞こえて
くる。とどろく、なにかと春に向つて
動きはじめると、が定感ださくるのも、こ
の時期ののちも知れません。
小さな虫が飛びはじめると、いつの間にか
木々の細い枝の間にクモの糸が張らゆき、
たりすれば、もうすぐ蝶が飛び回るのが目
にはいって来ます。
こんな日に、春を定感ださくはじめてると、内
まはった自分の心も外向きになりはじめて
の不思議です。
よし、今は、これをやろうと……



クロソビ等も黄色い小豆の花を咲かせてくる。
こうなれば、勝手なもの、春の喜びは人ごと
れこしまい、当然は出来ごとになり、感動も
うすれこしまいがち。

時をのき 解決するや 春を待つ

虚子

……と、こゝまで書いて、まだまだ入りの出来ごとだ
はとあるえる冷える朝。
春が来い、早く来いと待ち遠しい、
何んぞとそうかすが、待つこと時のワクワク、ドキ
ドキの時が一層いのかも知れません。

仲間だつたり

敵だつたり

自然がいつぱいあると、言う事は悪いこと
ではない、が、良い事はかりではないことも
解さなくても、イヤイフする出来事と
あつたりする。
雪の朝、散歩すれば、いくつかのフィールド
サインを見つけて、ことが出来る。
いわゆる足跡です。多分、鹿が鹿です。
川原ごと、道路ごと、畑、庭ごにも鹿の
足跡がある。その他、クヌギ、ウサギの足跡
とよく見かけます。
鹿のあとごと、ウサギがキツネか犬に食べ
られたりあつたりする時もある。
小さな小鳥の歩いごと、林の中を歩い
ば、リスの足跡もあつたりする。
社々の自然の中を暮らして、仲間と
いへば仲間です。
ごを敵にこつたりします。
特に鹿は、家の周囲までエサを求めてや
つて来る。植木や野菜、びんごとを食べつれ
る。あの優こそつて、大きな目をして、敵に
なるのです。鹿こそは、敵はひいひいかも知
れないが、人かうすれば、困つたヤツです。
ネズミごと、ほとんどの人が迷惑なヤツで、殺
して反対する人は少ないが、どうも、鹿だ
とそうでもない。自分に害がなければ、良
い仲間なのだから。
人ごと、どうも、ウサギは、ひいひい、
人肉のから、なかまが大変です。